

人々を引き付ける学会を目指して

調査理事 荒川 薫



電気・情報系学会の会員数が減少しており、この分野の活力が低下しているのではないかと危惧されています。本会は、全体として会員減がそれほど大きくありませんが、これは海外会員が増えたためであり、国内の会員数では、やはり大きく減少しています。情報通信というと、平成18年度に制定された第三期科学技術基本計画では、国の重点推進四分野の一つとして取り上げられたものでしたが、平成23年度の第四期科学技術基本計画では、それ自身が推進すべき研究対象というより、様々な方面で活用されるべき基盤技術という位置付けが強くなっています。このような世の中の動向が本会の活力低下や会員減につながっているのかもしれない。

現在、本会では、特に人数が減少している企業の会員を増やすための企画を行ったり、退会者が多い海外会員に長く本会会員として活動して頂くために、海外会員向けのサービスを充実させたりして、会員を増やす努力を行っています。

更に今後は、専門外の人々に電子情報通信工学の面白さをアピールすることも重要なのではと考えます。電子情報通信技術は新たに、環境エネルギーや人々の安全な暮らし、災害対策など、様々な分野と関わることにより、大きく発展することが期待されています。そのためには、専門外の人たちを引き込むことが必要となります。また、電子情報通信技術を国の重点的研究課題に位置付けるためにも、この分野の重要性を国民によく理解してもらうことが肝心です。

現在、調査理事として、本会のホームページの改編を行っています。改編のテーマは、「一般の人々の興味をも引き付けるホームページ」です。すなわち、本会のホームページは本会の顔であり、その機能の一つは学会関係者への情報提供ですが、一方で、部外者への情報発信という機能も有します。特に、一般の人へのアピールは学会へ新しい可能性をもたらすことが考えられます。昨年、故ステーブ・ジョブズ氏の伝記が大変なベストセラーとなりましたが、コンピュータの専門家だけがこの本を購入したのでは、これほど売れなかったでしょう。ジョブズ氏が世の中に提供した電子情報機器や音楽配信システムなどに、一般の人たちが共感したため、このようなヒット作になったと考えられます。一般の人たちが、何度も見たいと思うような学会ホームページを作ることができれば、電子情報通信工学分野への受験生の人気も上がるのではないのでしょうか。

電子情報通信技術の活用の面で世界から遅れを取っている日本の科学技術政策において、産学官+民で取り組む体制が必要といわれています。専門外の人や、一般の人たちを巻き込むことが重要と考えます。

20世紀に興った電子情報通信工学は、これまで専門性を深めるということを目指してきました。今後も、それが重要であることには変わりません。しかし、21世紀はこれらの専門的技術を合わせて、システムとして有意義なものを作り活用されることも期待されています。特に、スマートグリッドなどのエネルギー環境問題、医療、福祉、安全安心で豊かな生活など、私たちの身近な問題を解決するものとして、電子情報通信技術は大いに期待され、そのためには異分野の専門家や、一般の人たちがこの技術に興味を持つことが必要です。本会を会員や電子情報通信分野に関わる人たちはもちろんのこと、異分野の専門家、一般の生活者、また、これから進路を決める若い人たちなど、様々な人々を引き付けるような学会にしたいと思います。